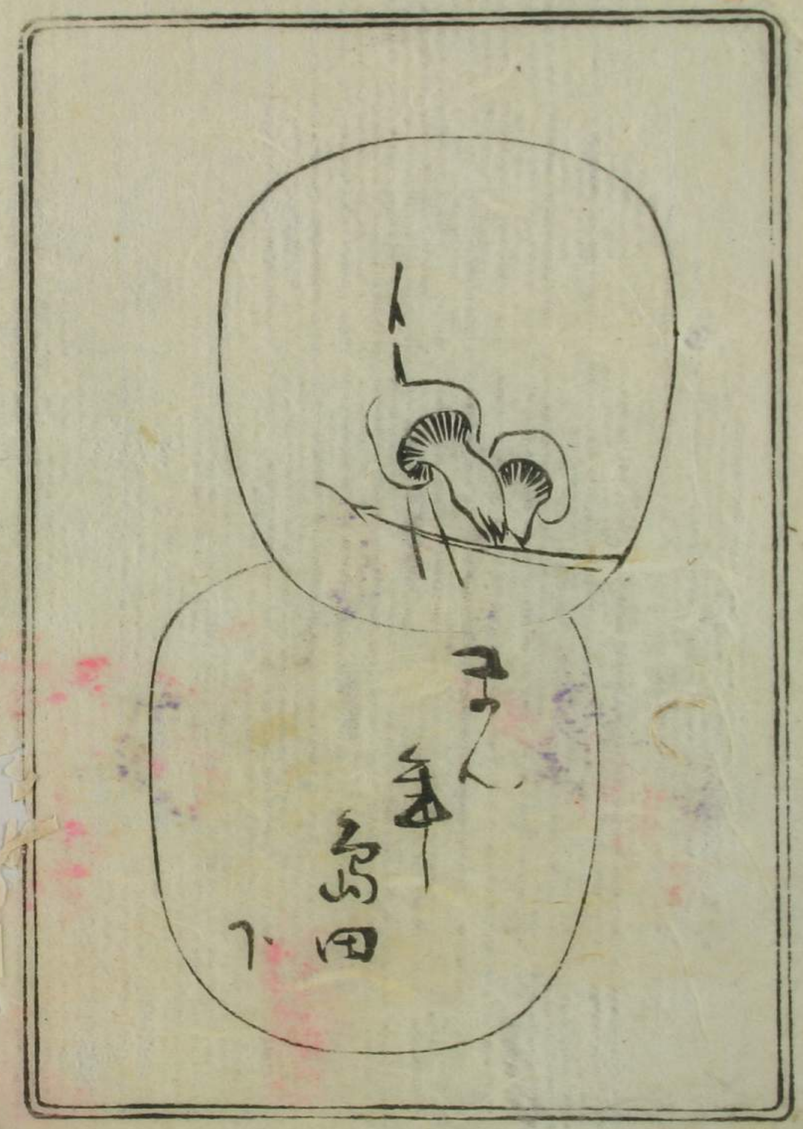
豊国
へ13
3017
11

豊國
十番上
十番下

3017
11



本傳第八輯に去る庚午の冬横濱遊行社失して今遠く十一輯を今稔西遊をこころざし幾百里の海原を船の中に乘合せし社徒然り腹藁して肥の長崎に着岸の後旅店乃窓下に墨斗城出し數日にして稿成ぬ横濱といふ長崎といひ総て洋夷社寄る所將交際の港にあるく前後二快を編る支世界を一周をしといふ例に倣ひ来名屋徳藏なる社名義首巻に假用して作の社を因みくんらくもどる紅英堂に尓々思いぶ嗣輯を促さるに困じて作者も尻に帆を掛て走りや者けん少疑いるく其言譯をかくのごとし

明治七年冬藁成
十年春發兌

為永春水誌

敷島の雛妓嶋里
波那高四郎
嚴寺の茂一郎
袖下祝儀六

つき
うとうとありくどいろふせんちやうん
うろうろあきわれせとうとうとりていらぬい
たやせひふちゃうんなこうろうやそくあるべ
けもどちんこうん平をやーつまき
ゆるてあやびくく
うんいとげ
こうくもうとも
かこいたるろ
こうくせりの
うるふぶ
けつきの
ゆうなろ
せそやりて
こをたそ
それと
こうい字
そのよ
ひとこい
ちうくと
いとあん
ごろふ
あやし
つわの
かんざーさ
わまたあを
もとわだうろう
ぶうん年きさう
わあくまるけし
きるいあきぶう
ものがたり
ちやんくる
その夜もまぶふ
きーろろっきた
つきらあ月
どあやのくく
あくりさび
しきやさて
こうくちうる
ふこうのきも
らいがくびい
ゆうそを
ことにんて
あんこう
そうぶあさ
こたい六どの
そうひふ
ろうろうきる
とろうくんぬ
うちゃんいを
とげさろ
そうるあう
せきうこさん
とてあうん
まくくとて
のくつくあり
さうふも
いとうあとつが
ちかてわつそ
まくとりとそ
そうひふ
ちゃんいろ
ぽゃねし
さこいつこう
もあのだそよ
をきちびく
のうれてく
ら月一メト
とうれてこま
ふくうちつき
文
武
木
月

為永春水作
歌川豊國画
永

三
永

高
大小
甲
乙

世話盲蛇
世話盲蛇

休憩
茶屋の内

高
茂

奈

朝鮮牛肉丸

大包 金二朱
中包 金一朱
小包 銀一匁

牛一ひいをとりのひきんせいをすりまぜあらやくるまいをまぜあまくしたもつるあり月ひてとろろ

大谷さこせ〆ゆり

製元 日邨 梁嶋氏製

爲永春水作

歌川豐國画